

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	グリーンサイクル株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市港区昭和町13番
工場等の名称	グリーンサイクル株式会社
工場等の所在地	名古屋市港区昭和町13番
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	家電リサイクル業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月30日 ～ 令和5年10月28日		
公表方法		掲示 閲覧	（場所）
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
	○	その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-613-5701		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

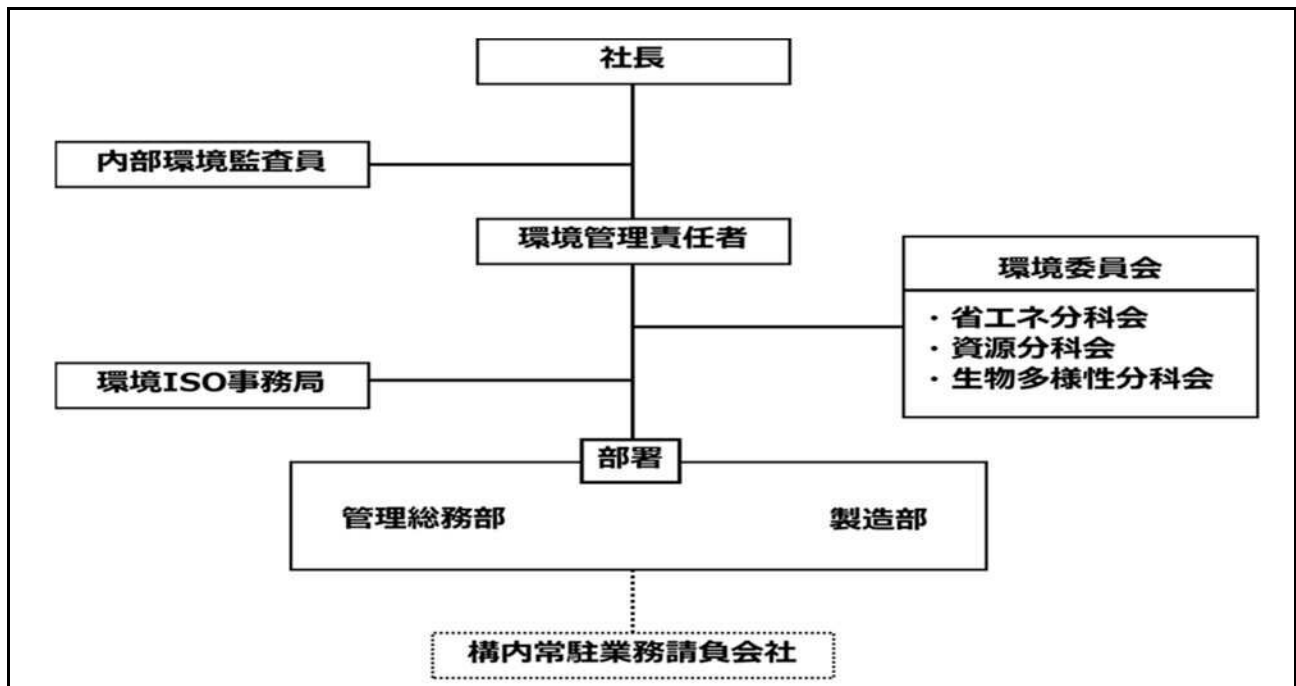
環 境 方 針

『地球環境保全に取り組むと共に、循環型社会の形成に貢献します』

行 動 指 針

1. 環境保全に関する全ての法規制及び社会規範を遵守します。
2. 使用済家電のリサイクル事業を通じて環境に与える影響を軽減します。
国内資源循環の拡大とフロンをはじめとする有害物質の適正処理を行います。
3. 事業活動と一体となった環境保全活動を実施し継続的な改善を行うことで、
環境負荷を与える温室効果ガス・廃棄物・水の使用量等を削減します。
また、生物多様性の維持にも努めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,928	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類	35,572	t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	37,500	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	811.8	kg-CO ₂ / t	809.4	kg-CO ₂ / t	1083	kg-CO ₂ / t		kg-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）			0.3	%	▲ 33.4	%		%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂ / t		kg-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

今年度実績よりR-32のフロン分もCO2排出量に追加したことで増加。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和4年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2011年	太陽光1基	20KW自家消費（年間KW：27,516）
2018年	太陽光2基	50KW自家消費（年間KW：53,983）
2020年	太陽光3基	206KW自家消費（年間KW：185,744）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和4年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・省エネ巡回を実施し、エアー漏れ箇所や空調の温度設定等の確認および対策を実施した ・大型設備の動力盤に電力量計を設置し、不明であったエネルギー量を可視化することで管理を強化した ・コンプレッサーの圧力を調整（0.58Mpa⇒0.55Mpa程度に設定）し、エネルギー量の節減に繋げた
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

実施していない
